

2010年8月1日 平和主日

ヨハネ 15:9-12 ミカ 4:1-5 エフェソ 2:13-18

★今週の聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。
これがわたしの掟である。」 ヨハネによる福音書 15:12

★ねらい

・8月の第一主日は「平和主日」として守られています。私たちが互いを大切にしようときに、喜びが生まれ、きずなが生まれ、平和が生まれます。

★ポイント

・私たちが愛し合うことができるのは、私たちのために命をすててくださったイエス様の愛が基礎にあるからということ学びましょう。

★豆知識

・これらのことばは、主イエスが十字架にかかる前の晩に、弟子たちへの告別の言葉として語られたものであることを伝えましょう。

★説教

イエス様は、ご自分が死刑になる前の夜に、弟子たちにご自分の気持ちを全部おはなししてくださいました。その時に、ご自分がいつも感じていらっしゃる喜びについて教えてくださいました。それは、父である神様から、愛されているという喜びでした。イエス様は、その喜びを、大好きな弟子たちにも与えたいと望まれました。そして弟子たちのことを「わたしの友だち」と呼んでくださいました。知っていましたか？私たちはイエス様のことを親しく「友だち」と呼んでいいのです。とてもうれしいですね。そして、とてもありがたいことです。なぜならイエス様のようにすばらしい友だちは、他にはいないからです。イエス様はご自分の命すらも捨ててかまわないほど、友だちを大切にするお方なのです。

こんなに私たちのことを大切に、愛してくださったイエス様は、今度は私たちに「あなたがたも互いに愛し合いなさい」と教えてくださいます。互いに愛し合うときに、本当の喜びを感じることができるよ、その喜びを味わってごらんといわれます。実は、それはもうすでにみなさんも何度も体験していませんか？たとえば、お友だちに親切にしてあげたとき、自分もとてもうれしくなるでしょう。大好きな家族に心をこめてプレゼントを渡したとき、家族の喜ぶ顔を見て、みなさんもうれしくなるでしょう。困っている人を見て、何か自分が出来ることを実行したとき、助けてあげて本当によかったと、自分の心も明るくなるでしょう。ふしぎなことにわたしたち人間は、他の人とつながることで喜びを感じる生き物なのですね。そのつながりを大切にしてください、そのきずなを大切にしてください、とイエス様は教えてくださいますのでね。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

141番

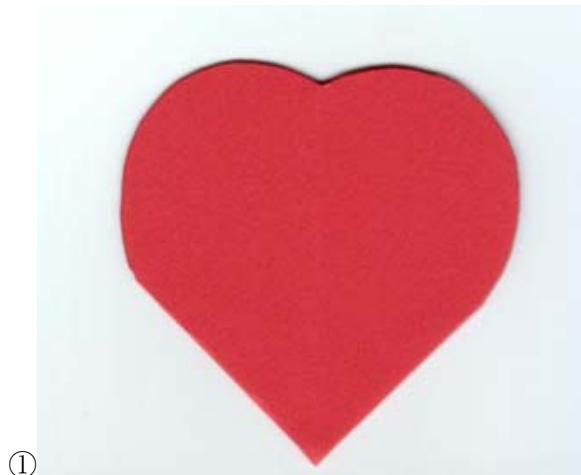
108番（改訂版）

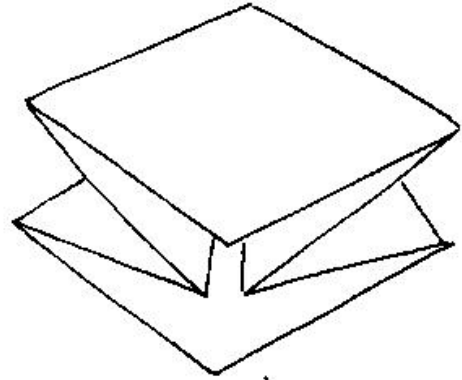
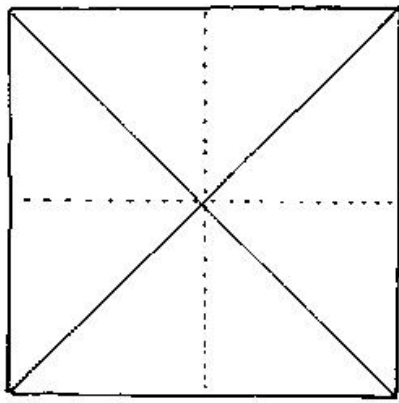
話してみよう

- ・好きなともだちのこと。
- ・きれいな、いやなともだちのこと。
- ・イエス様ならどうされたでしょう。

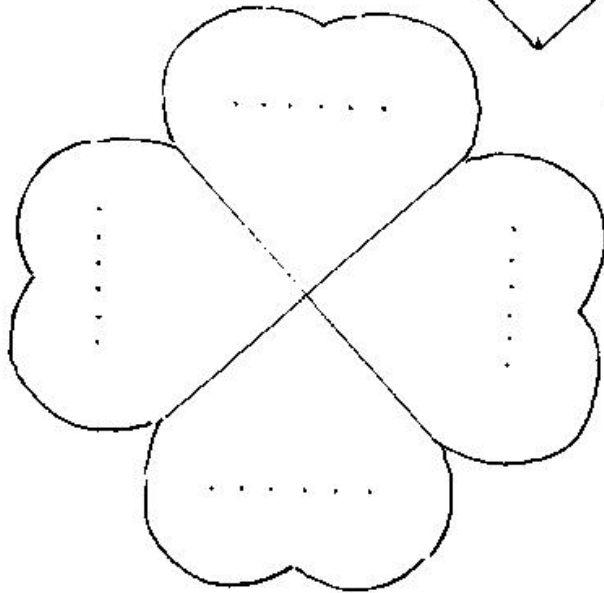
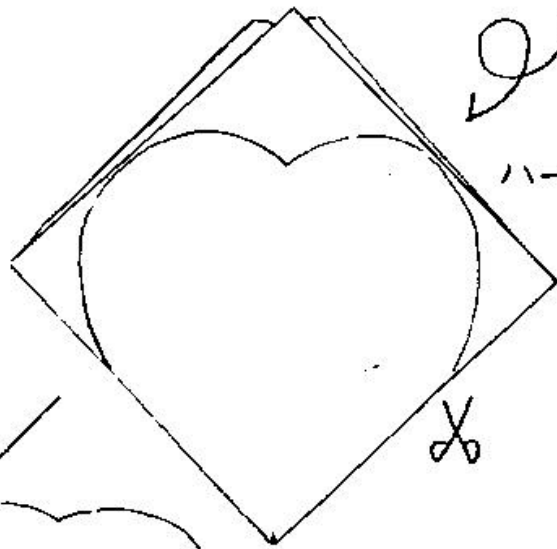
やってみよう

鶴おりの基礎から、ハサミでハート型を切り取る。開くと4つのハート。それぞれのハートに今日の聖句を書く。残りのハートに友だちの名前を書き入れる。





ハートにきる



ひらいて
聖句をかき
友だちの名前をかき

★ 今週の聖句

「どんな貪欲にも注意を払い、用心なさい。」

ルカによる福音書 12:15

★ねらい

- ・ 欲望には限りがなく、それが完全に満たされることはありません。しかも、貪欲さは自分自身だけに集中させ、神様や他者に対する意識さえも失わせてしまう危険があります。
- ・ 自分の幸福だけを追求する者は、やがては空しく滅びてしまいます。神の前に豊かな者とは、自分自身の中に閉じこもってしまう者ではなく、喜んで「自分自身を与える者」(エーリッヒ・フロム)です。

★ポイント

- ・ 豊かな国に住んでいる私たちは、自分が貪欲、独占欲に捕らわれていることに気づかないことがあります。貧しい国々の人々の暮らしにも目をむけましょう。
- ・ 兄弟などがいない場合、子どもたちは普段、自分のものを他者と分ち合うことにも慣れていないかもしれません。具体的に何かを分ち合うような体験を、礼拝や分級の中で実践してみましょう。

★豆知識

・ エーリッヒ・フロムは『愛すること』の中で、「たくさん持っている人が豊かなのではなく、たくさん与える人が豊かなのである。何かを失うのではないかと心配して思い煩っている貯蓄型の人、心理学的にいえば、どんなにたくさんのもをもっていようと、貧しい人、貧しくされた人である。自分自身を与えることのできる人は裕福な人である」と言っています。

★説教

ある金持ちの畑が、大豊作に恵まれます。畑の食物はたわわに実り、倉庫はあふれていっぱいになってしまい、作物を全部しまっておくことができません。お金持ちは、それを見て考えます。「うれしいな、こんなにたくさんのお作物がとれたぞ。しかし、こまったな、全部をしまう場所がない。どうしたらいいだろう・・・」。いいアイデアが浮かびました。「今よりもっと大きな倉庫を建てて、そこに作物をしまいこんだらいいんだ。そうすれば、もうこれから何年間も先のことを心配せずに、好きなだけ飲み食いして楽しめるぞ。何の心配もなく遊んでくらせるぞ。人生を大いに楽しもう!」。金持ちは、うれしくてうれしくて、踊りだしたいほどでした。

しかし、神様は金持ちに告げます。「愚か者よ、お前はこれから何年も生きていけると思っているが、お前の命は今晚で終わりだ。そうなったら、お前の用意したもの、たくさんのお作物、倉庫に納めきれないほどの食糧は、どうなるのだ」。

みなさんは、この金持ちをどう思いますか? いったいなにが間違っていたんでしょう?

一つは、彼が自分のことしか考えていなかったことです。金持ちのまわりには、きっと毎日の食べ物にも困るぐらい貧しい人たちがたくさんいたはずですが。それなのに、彼は自分のためだけにありあまる作物をとっておこうとするのです。そのために大きな倉庫を建ててまで、独り占めしたかったのです。

もう一つは、この金持ちが、大地やお天気を支配される神様のことを全く考えていなかったことです。作物が豊作になったのは、自分ががんばったからだと言頂天になっていたのです。雨を降らせ、実りを与えてくださるのは神様だということをすっかり忘れてしまうほど、自分をえらいと勘違いしてしまったのです。

私たちはどうでしょうか。目の前にある豊かなもの、食べ物や着る物、暮らしに必要なものを、感謝の気持ちをもって受け取っているでしょうか。また、自分だけで独り占めにしたい気持ちがどこかにありませんか？「どんな食欲にも注意を払い、用心しなさい」（15節）というみことばを忘れないようにしましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 1 番

1 2 3 番（改訂版）

話してみよう

- ・どん欲、欲張りについて考えてみよう。
- ・私自身はどうでしょう。
- ・どんな時にも、他の人のことを考えることができたらいいですね。

やってみよう

何でも仲良く半分こ！

紙をつかって色々の半分を作ってみよう。

折紙で横に折っても縦に折っても半分が出来る。三角に折っても半分になる。矩形（長方形）の紙ではどうしますか。星形や六角形など色々の形で半分にするにはどうしたらいいでしょう。うれしいこともかなしいことも、お互いによく話し合うことで、分け合うといいですね。

★ 暗唱聖句

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。」

ルカによる福音書 12章 49節

★ねらい

人々の集まりが、一見、争いもなく平和が保たれているように見えても、内実は一部の弱い立場の人が圧迫され、虐げられており、その犠牲のゆえに全体のバランスが保たれていることがある。このような中で、本来のあり方を取り戻そうとすると、大きな痛みを伴うことがあります。

★ポイント

- ・ イエス様はこの世界に神の愛と正義にもとづいた秩序をもたらすため、十字架の道を引き受けてくださいました。私たちへの愛のゆえに、その道を歩んでくださったことを覚えて感謝し、私たちもイエス様の弟子としてその道を選ばせていただきましょう。

★豆知識

- ・ 平行箇所であるマタイ 10章 34～36節を読んでみましょう。

★説教

「わたしは、この地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ」、これはイエス様のことばです。いつもやさしいイエス様のお姿をイメージしている私たちには、なんとなくきびしく聞こえますね。分裂とは、お互いの考え方がちがうため、分かれてしまうことです。イエス様は、みんなが兄弟姉妹として、なかよくなることが望みではなかったのでしょうか？そのような平和な状態を求めておられるのではなかったのでしょうか？

でも、イエス様が求めておられる本当の平和とは、単にもめごとや、争いがないことではありません。もし、力のある人が弱い人に向かって「文句を言わずに黙っている。さもないと、ひどい目にあわせるぞ」と言っておどしたとします。弱い人は逆らうことができないので、自分が望んでいないこともがまんさせられます。何にも知らない人がこの状態を見ると、けんかもなく、静かで平和に見えます。でも、それは本当の平和とはいえませぬね。

イエス様は、みんなが神様の子どもとして、助け合い、支え合って生きるよう、望んでおられます。それが本当の平和な状態です。私たちの中に本当の平和をつくるために努力しようとするれば、苦しいことがいっぱいあります。分裂が始まり、戦いや争いが起こることもあるのです。でも、それらを通して、はじめてみんなが幸せになれるのです。イエス様ご自身も、私たち人間がお互いに本当に理解し、助け合っていくことができるよう、苦しい道を選んでくださいました。その結果、反対する人たちから憎まれ、十字架にかけられて殺されてしまったのです。

私たちはイエス様の弟子です。本当の平和をつくるために、イエス様から勇気をいただき、行動しましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

46番

120番（改訂版）

話してみよう

- ・イエスさまの「火」とはどんなことでしょう。
- ・私たちの知っている火のことを考えよう。
- ・（野焼きや山焼きの写真や絵を参照にして）

農業をしている人々は、春先になると、枯草の野や丘を焼きます。一斉に火をつけて焼き払います。そうするとその後には新しい草の芽が出、伸びて美しい野原になります。

- ・私たちの心の中も、イエスさまの「火」ですっかり新しいものにしていただきましょう。

★今週の聖句

「狭い戸口から入るように努めなさい。」

ルカによる福音書 13:24

★ねらい

- ・ 狭い戸口から入るとは、どのようなことかを理解しましょう。
- ・ 反対に広い戸口から入るとは、どのような生き方かも考えましょう。

★ポイント

- ・ イエス様は私たちを狭い戸口のほうに招いておられます。その呼びかけに応えるのが神の子どもである私たちの生き方であることを伝えましょう。

★豆知識

茶道では文字通り小さく狭い「にじり口」を通して、茶室に入ります。そこを通過するためには、自分の姿勢も低くし、邪魔になる持ち物も置いていかなければなりません。しかし、茶室の中に入れば、豊かな時間とすばらしいもてなしを味わうことができるのです。

★説教

ある人がイエス様に質問します、「救われる者は少ないのでしょうか?」。この質問にイエス様は「そうだ、少ないのだ」とも「いいや、多いよ」とか、直接答えておられません。ただ、「せまい戸口から入りなさい」と答えておられます。

みなさんは「せまき門」という言葉を聞いたことがありますか?受験や就職のとき、みんながよい学校に入りたい、よい会社に勤めたいと思うわけですから、競争がはげしくなってしまうですね。倍率が高くなってしまいうんです。そんな大勢の中で、よい学校や会社に入れるのは、ほんのひとにぎりの人たちだけです。そういう人のことを“エリート”と呼んだりします。

それと同じように、救われて天国に行ける人は、やっぱり少ないと思ってしまうですね。しかし、「救われる者は少ないのでしょうか?」という先ほどの質問にイエス様が直接はお答えになっていないということは、人間の救いを判断するのは、神様だけだとおっしゃりたいのではないのでしょうか。神様でもない私たちが、自分が救われるかとか、あの人は大丈夫だろうか、などと言ってみても仕方がないのです。そんなことよりも、今、私たちに与えられているこの時を大切に用いるようにすすめておられます。それが「せまい戸口から入りなさい」という言葉の意味です。この言葉を注意深く聞いてください。戸口はせまいけれども、ちゃんと開いているのです。このせまい戸口を通りますか?それとももっと広い戸口のほうに行きますか?と問われているのです。せまい戸口から入るためには、自分の姿勢をかがめて、頭を低くして入らなければなりませんね。同じように、自分の生き方や友達との関係を振りかえり、反省したり改めたりすることが必要になります。自分を変える必要があるのです。めんどくさいし、楽ではありませんね。それよりも、姿勢を変えたり、生き方を変えたりしないでも通れるような広い戸口を選びたくなるのが私たちかもしれません。でも、せまい戸口の向こうにはとても豊かな世界が広がっています。神様と友達とつながって生きる世界です。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□ 3 6 番

□ 1 2 0 番（改訂版）

話してみよう

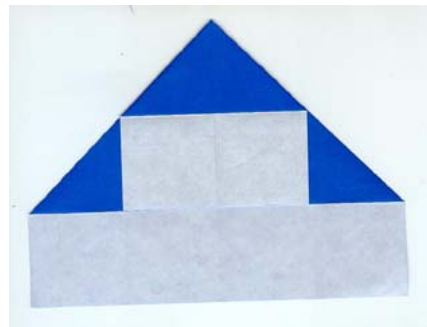
- ・ 広い大きい門は、入りやすい
→ 大勢の人々が流れるように入りますと私達も流されて入ってしまいそうです。
- ・ 狭い門は、入りにくい → 自分自身を小さくしないと入れない ひとりでしか入れない
- ・ 狭い門とは、どんな門でしょう。

やってみよう

折紙で広い門と狭い門を作ろう

1. 縦に山折り3回、折り目をつける
2. 横に山折り1回、谷折り1回の折り目
3. 右上角を左の折り目に合わせ三角に山折り
4. 左上角を逆に右の折り目に合わせて山折り
5. 全体の折り目のおりに折りたたむと、二階の家ができる。

（最後の晩餐もペンテコステの
出来事もこの2階の部屋）

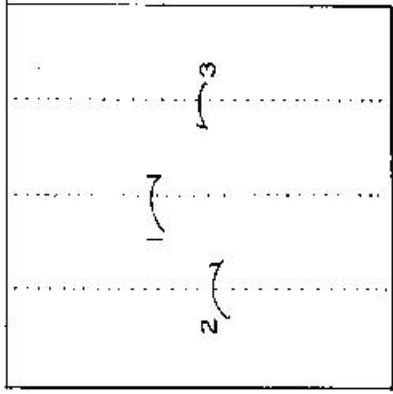


6. 2階のカーテンを斜めに中に折りこむ。1階の両端を半分に折る
7. 広い大きい門

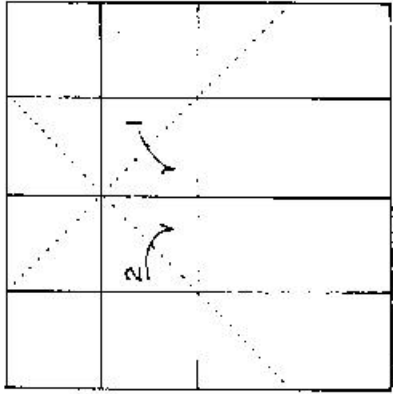


8. 広い門の柱の両端を中に折りこむと、狭い門になる

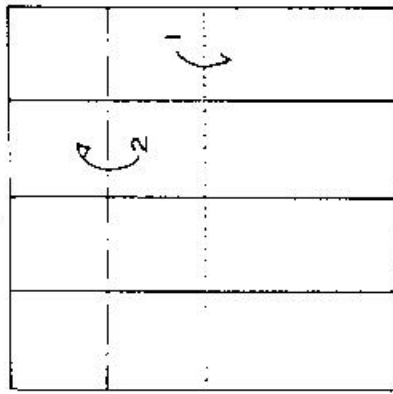




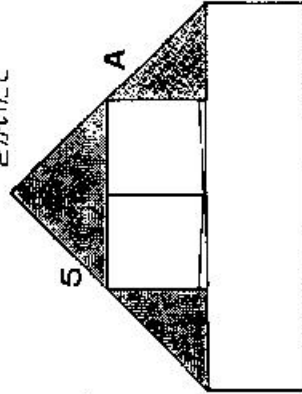
1



4

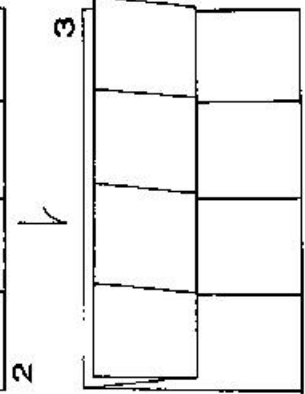


2

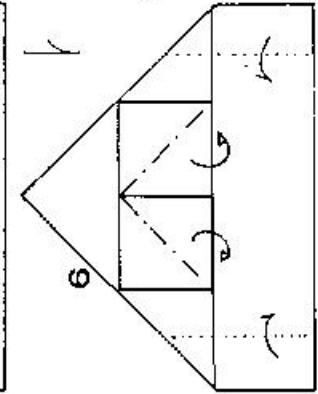


おりのめとおりにたたんだと
目がいたで

1

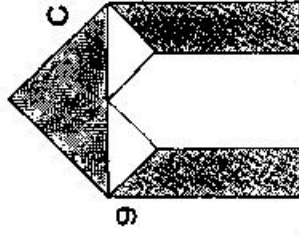


3

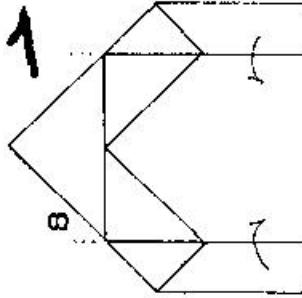


ひろいめん

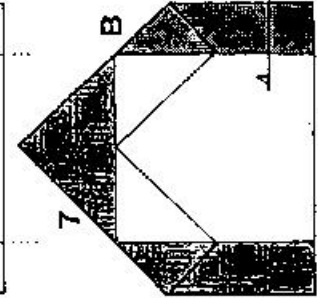
1



せまいめん



1



イエロー
オレンジ
1/2を
いれる

★今週の聖句

「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。」 ルカによる福音書 14:13

★ねらい

・人から評価されたい、認められたいという気持ちは誰にでもあります。ほかの人よりも優位に立ちたいという気持ちがやがて争いや妬みを生み出してしまふことに気づきましょう。

★ポイント

・イエス様は、僕の姿をとられ、最も低い身分の者のようにして仕える者となってくださいました。そのイエス様の姿を見習いましょう。

★豆知識

- ・当時、有力なユダヤ人の家では、盛大な昼食会が催され、いろいろな人が招待されました。その際、聖書の知識に詳しいファリサイ派の人や、尊敬されている議員などは上座に着くならわしでした。特に招待主の左右の席は最も名誉ある場所で、招待主から重きを置かれていること意味し、給仕される食べ物や、待遇も特別でした。ですから、人々は相手を押しつけてでも上座に座りたかったのです。

★説教

みなさんが車でドライブに行くことになったとします。後ろのほうの座席は狭くて窮屈そうです。それに比べて前のほうの座席は眺めもよく、ゆったりとしています。誰でも前の席にすわって、快適にドライブを楽しみたいと思いますね。みなさんだったら前の席を「さあ、どうぞ」と他の人にゆずってあげることはできますか？それとも自分が真っ先に座ってしまうのでしょうか？

イエス様の時代にも、食事のとき、みんなが座りたがる席がありました。招待してくれた人の右と左の席です。なぜならば、その席に座る人は大切なお客さんとして扱われ、特別のご馳走が運ばれてくるからです。逆に、招待してくれた人から離れれば離れるほど、あまり大切ではないお客さんということになってしまうのです。ですから、みんなはよい席に座るために必死で競争しました。でも、イエス様は「高ぶらず、へりくだりなさい」といわれます。それは、一言でいえば、自分のことを第一に考えるのではなく、相手の気持ちを考えて行動しなさい、ゆずりなさいということです。でも、これはなかなか難しいことですね。なぜなら、やっぱり私たちは自分が一番大切でかわいいからです。そして、自分は他の人よりも立派だとか、すぐれているとか思いたい気持ちをもっているからです。

でも、私たちはみんな、神様から平等に愛されている兄弟であり、姉妹です。イエス様は神様の大切な独り子なのに、しもべの姿をとられ、いちばん身分の低い者のようにして私たちに仕えてくださいました。そんなイエス様をみていると、私たちが自分をえらく見せようとがんばって、他の人と争っていることがばからしくなってしまうませんか。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 1 番

1 2 3 番（改訂版）

話してみよう

- ・ 貧しい人たちのことをよく知ろう。
日本だけではなく、世界の中には、貧しい人たちが大勢いることも。
- ・ 体が不自由な人や友達のことよく知ろう。

やってみよう

〈用意するもの〉 バンダナか手拭い、砂袋など

目の不自由な人たちのことをよく知るために、バンダナなどで目隠しをして歩く。

体の不自由な人たちのことをよく知るために、脚や腕に砂袋をつけて動いたり、歩いてみる。
不自由な場面を考えながら、お互いに交代してやってみる。